年間授業計画

高等学校 令和５年度（２学年用） 教科　　芸術(音楽)　　科目 音楽Ⅱ

教　科： 芸術(音楽)　　科　目： 音楽Ⅱ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組

教科担当者：（1組： 李 ）

使用教科書：（ 音楽Ⅱ Tutti＋ ）

教科 芸術(音楽)　　の目標：

【知識及び技能】 音楽全般の歴史、知識を高める。

【思考力、判断力、表現力等】 自分の表現したい音を、楽器を見つけ、課題をもって演奏技術の向上に取り組む。

【学びに向かう力、人間性等】 音楽表現を通じて、自己の表現力の豊かさを育み、他の奏者の表現を学ぶ。

科目 音楽Ⅱ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽全般の歴史、知識を高める。	自分の表現したい音を、楽器を見つけ、課題をもって演奏技術の向上に取り組む。	音楽表現を通じて、自己の表現力の豊かさを育み、他の奏者の表現を学ぶ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			歌	器	創						
1学期	音楽Ⅱの学習目標や学習計画を確認し、なじみのある歌を歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌い、音楽Ⅱの学習意欲を養う。	オリエンテーション	○				【知】様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 【思】音色・リズム・旋律などの働きを感受しながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 【主】歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	発声のエチュードや「アヴェ・マリア」を歌いながら技能を高めたり、いろいろな「アヴェ・マリア」を聴き比べながら音楽的な見方・考え方を働かせたりして、音楽Ⅱの学習を豊かに展開していくための力を高める。	「アヴェ・マリア」を歌おう	○			○	【知】曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 【思】音色・リズム・旋律などの働きを感受しながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 【主】いろいろな「アヴェ・マリア」を聴き比べながら音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	日本語の抑揚や間・語感・歌詞が旋律の流れやフレーズにどのように表され曲想を生み出しているかに関心をもち、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。	日本歌曲を歌おう	○		○		【知】曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 【思】音色・リズム・旋律などの働きを感受しながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 【主】日本語の抑揚や間・語感・歌詞が旋律の流れやフレーズにどのように表され，曲想を生み出しているかに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2学期	リコーダーまたはギターのどちらかを選択し、各楽器の奏法を身に付け高める。 また個性豊かに器楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。	アンサンブルを楽しもう ―リコーダーかギターを選択して―		○			【知】曲にふさわしい奏法や身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思】音色・リズム・旋律を感受しながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫している。 【主】リコーダーまたはギターのどちらかを選択し、奏法を身に付け高めることや個性豊かに器楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をすることに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	26
3学期	世界の諸民族の様々な声の音楽から音楽表現の多様性を捉えるとともに、諸民族の声の音楽と日本の声の音楽の比較を通して、音楽表現や音楽文化の固有性・共通性を考える。	世界の様々な音楽の魅力	○			○	【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びそれらの関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 【思】音色・リズム・旋律を感受し、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主】世界の諸民族の様々な声の音楽から音楽表現の多様性を捉え、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	18
											合計
											70